

女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム
World Assembly for Women in Tokyo: WAW! Tokyo 2014

概要

平成26年9月13日
WAW! 準備事務局

1. はじめに

9月12日から13日、東京において、「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」(World Assembly for Women in Tokyo, 略称: WAW! Tokyo 2014)が開催された。(日本国政府, 日本経済団体連合会, 日本経済新聞社, 日本国際問題研究所共催。日本経済研究センター後援。)。このシンポジウムは、安倍政権の最重要課題の一つである「女性が輝く社会」を実現するための取組の一環として開催され、クリスティーヌ・ラガルド国際通貨基金(IMF)専務理事をはじめ世界各国及び日本各地から女性分野で活躍するトップ・リーダーが出席し、日本及び世界における女性の活躍促進のための取組について議論が行われた。

2. 9月12日「公開フォーラム」及びグループ表敬

12日は、経団連会館において「公開フォーラム」が開催され、安倍総理大臣、安倍昭恵総理夫人、岸田外務大臣他が出席した。

(1) 公開フォーラムの冒頭、安倍総理は、スピーチ(別添1)を行い、企業の女性登用の取組の後押しや仕事と子育ての両立支援といった「女性が輝く社会」の実現に向けて日本がとってきている具体的な取組や課題を説明した上で、女性の活躍促進のための取組を一層推進していく意思を表明した。その上で、参加者に対して、女性も男性も、すべての人が輝く社会の構築に向けて行動することを呼びかけた。

(2) 続いて、ラガルドIMF専務理事が「女性のエンパワーメントによる経済効果」とのテーマで基調講演を行った。その中で、同専務理事は、経済回復の鍵は女性の力の活用にある旨述べ、女性の経済的隔離のコスト及び女性の経済的地位向上に係る施策等につき説明した。

(3) さらに、安倍昭恵総理夫人とシェリー・ブレア氏(女性のためのシェリー・ブレア基金創設者)(元英首相夫人)との間で「女性が輝く社会に向けて」とのテーマで特別会談が行われた。また、ヒラリー・クリントン前米国務長官から贈られたビデオ・メッセージがケネディ駐日大使により紹介され、その中で安倍総理の女性活躍促進に関するイニシアティブへの賞賛が示された。最後

に、「女性の活躍が企業競争力を高める」とのテーマでパネルディスカッションが行われた。

3. 9月13日「ハイレベル・ラウンドテーブル」

13日は、六本木ヒルズ・アカデミーヒルズにおいて「ハイレベル・ラウンドテーブル」が開催され、安倍総理大臣、安倍昭恵総理夫人、有村女性活躍担当大臣他が出席し岸田外務大臣が全体議長を務めた。

(1) オープニング・セッションでは、冒頭、安倍総理がスピーチを行い、日本が、約束を守り行動をとる国として、国際社会において、教育や保健など基本的な権利を女性に保障する支援や女性の経済的自立を促す支援を引き続き行っていくとの決意を表明した。また、UN Womenとの連携を強化していくことを強調した上で、UN Womenの日本事務所が来年開設されることにつき歓迎の意を示した。さらに、参加者に対して、具体的な行動につながる提案を期待する旨述べた。

(2) また、クラークUNDP総裁、ムランボ＝ヌクカUN Women事務局長、チョードリー・バングラデシュ国会議長、エクエ・トーゴ社会運動・女性地位向上・識字教育大臣及びピニャト・エルサルバドル大統領補佐官からも女性の保護や活躍促進の重要性に関する発言があった。

(3) 続いて、2つの分科会が行われ、参加者は、更に各分科会は以下のテーマで3つのグループに分かれて議論を行いました。

分科会1「経済における女性の活躍促進」

- ①「企業・組織の中での女性の活躍」
- ②「女性と起業」
- ③「働く女性を支えるインフラ」

分科会2「グローバルな課題と女性のイニシアティブ」

- ①「これからの「人間の安全保障」と女性」
- ②「女性が創る平和と繁栄」
- ③「女性が自己決定できる社会」

(4) 分科会2の全体会合の冒頭では、岸田外務大臣からスピーチを行い、紛争下の性的暴力を撲滅するための取組を強化するとの決意を表明した。また、紛争予防・平和構築、災害に強い社会づくりや災害復興にも女性の参画が不可欠である旨述べた。さらに、人間の安全保障の理念が、世界で主流化し、ポスト2015年開発アジェンダに反映されることにより、支援が確実に一人ひとりの女性に届くとの認識を示すとともに、UNDPやUN Women等の国際

機関等との連携を一層深めていくことを約束した。

続けて、バンクーラ紛争下の性的暴力担当国連事務総長特別代表から発言があった。

(5) 同様に、分科会1の全体会合の冒頭では、フー・シンガポール首相府大臣兼第二外務大臣兼第二環境・水資源大臣からの発言のち、有村女性活躍担当大臣からスピーチを行い、女性の力は日本の最大の潜在力であり、全ての女性が輝く社会の実現に向けて、本腰を入れて取り組んでおり、今後も国内外の参加者とも協力しながら行動していきたい、と述べた。

(6) WAW! T o D o

最後に、クロージング・セッションにおいて、全体議長たる岸田外務大臣が、ハイレベル・ラウンドテーブルの議論を踏まえ整理した、日本及び世界に向けた提案「WAW! T o D o」を発表すると共に、WAW! を来年も日本で開催する旨発表した（別添2）。

【参考】日程

- 9月12日 【午後】 公開フォーラム
【夕方】 レセプション
- 9月13日 【終日】 ハイレベル・ラウンドテーブル
- 9月14日 文化行事（富士山近郊視察・散策）・地方展開
- 9月15日 地方展開
- 9月8日～19日 シャイン・ウィークス

(了)

女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム「公開フォーラム」

安倍総理大臣スピーチ

本日はようこそ「女性が輝く社会に向けた国際シンポジウム」WAW! Tokyo 2014にお越しく
さいました。

「女性が輝く社会をつくる」

一昨年12月の政権発足以来、私が一貫して、最重要課題のひとつとしてきた政策です。なぜ、私は女性活躍に熱心に取り組んでいるのか。本日お招き頂いている妻、昭恵から説得されたから、では、もちろんありません。昭恵は、「家庭内野党」などと言われることがあります。しかし、こと、女性の活躍については、夫婦の間で意見の相違は全くないことを告白しておきます。

9月3日に私は内閣改造を行いました。特に、5人の女性閣僚を任命したことが大変話題となり、過去最多に並ぶ、とも言われております。自民党の政調会長という重要ポストにも女性を起用しましたので、正確には、「過去最多」だと申し上げたい。

首脳会談で、相手国は出席者の半数以上が女性なのに、日本側は全てがダークスーツの男性、ということもありました。これからは、胸をはることができるだろう、と、少しむきになって調べてみました。改造で我が国の女性閣僚の人数は、OECD加盟国中29位から11位に躍進しました。

トップテンにはまだ及びませんが、日本の政治の風景も変わっていきます。女性閣僚、与党役員、どなたも能力と意欲に溢れる素晴らしい方たちです。存分に活躍してくれると確信しています。

(多様性は新たな価値をもたらす)

皆さんもご承知のとおり、今の日本は、女性登用の優等生とは言えません。女性の国会議員は11%にとどまります。

だから、今こそ行動しなければならない。我が国は2020年までに、女性が指導的地位に占める割合を30%とする目標を掲げています。

フォーチュン誌の選んだ上位500社を対象にした調査では、女性役員を3人以上擁する企業は、一人もいない企業に比べ、8割以上も利益率が高く、株の投資先としても有利であるという結果が出たとのことでした。

日本の企業でも、女性の発想を商品開発に生かす取組が始まっています。

女性中心のチームの発案で、子どもを抱いて乗り降りしやすい、ドアが大きく開く車を開発したところ、5か月連続で販売台数1位を記録しました。

女子社員の提案でジュエリーブランドとコラボしたノートパソコンは、ネイルを傷つけずにカバーを開けられるデザインを採用し、人気商品になっています。

企業経営に、女性ならではの視点を持ち込む。多様性を持った組織は、新たな付加価値を社会に提供することができるのです。

(企業の女性登用の取組を後押しする)

「上場企業では、少なくとも1人は役員に女性を登用してほしい。」

私は、日本の経済界に女性登用に向けた具体的な行動を促してきました。金融、商社など、これまで日本では男性の職場と思われていた業種でも、次々に女性役員が誕生しています。

この動きをさらに加速していきたいと思います。女性の役員登用の状況について、各国で情報を開示する動きが進んでいます。我が国も、有価証券報告書に役員女性の登用状況を記載するよう、この秋には制度改正を行います。女性の活躍を推進する企業には、政府調達での受注機会の増大を図ります。新たに女性登用に取り組む企業には、助成を行っていきます。ITを活用したテレワークの普及を推進し、柔軟な働き方の実現を目指します。

(仕事と子育ての両立を支援する)

経済成長を促し、女性の活躍を応援する取組を行ってきたこともあり、我が国の働く女性は、この1年間で53万人も増えました。

やりがいのある仕事を、ずっと続けていきたい。そして会社の中で責任ある立場で活躍したいと頑張っておられる女性も多い。一方で、最初のお子さんを出産したのち、6割の女性が仕事を辞めていることも我が国の現実です。

子育てのためにいったん仕事を辞めたけれど、また働きたいという方もいる。子育てや介護が一段落するまでは、家庭で頑張ろうという方もおられる。正社員として働くことにチャレンジしたい人もいます。

どの選択も貴いと思います。どの道でも良い。自信をもって選択した道を生きる女性の皆さんを私は応援していきたい。女性の活躍を阻むあらゆる課題に挑戦していきます。

仕事を続け、また、仕事を再開するため、子育てと仕事の両立に悩む女性は多い。「待機児童」という言葉をなくしていかなくてはなりません。本年度末までの2年間で20万人分の入園枠を確保するという目標を掲げていますが、すでに19万人分のメドがつかしました。さらに、来年度からの3年間で20万人分の入園枠を確保し、待機児童の解消に向けた道筋を確実にしていきます。

企業で働くだけでなく、新しいビジネスや社会貢献活動に乗り出す元気な女性も多くおられます。

東日本大震災の被災地である福島では、風評被害に苦しむ酪農家の女性が知恵を絞り、地元の牛乳と牛肉を使ったシチューを開発しました。半年足らずで2千食も売り上げる人気商品となりました。アフリカの高品質の皮に着目し、洗練されたデザインのバッグに加工するビジネスを始め、女性たちを応援している方もいます。

出産で仕事を辞めた、あるお母さんは、自分の子育て経験を生かして子育て支援拠点を立ち上げました。地域限定ではもったいない、とNPO法人を設立し、そのノウハウを全国に広める活動を始めました。

起業したい、NPO活動で世の中の役に立ちたい。そう夢を持つ女性がたくさんいます。そうした方々に思い切り活躍してもらえるよう、事業の立ち上げから軌道に乗る時まで、きめ細かな支援を行っていきます。

来年度から、保育や子育て支援を強化する一環として、新たに「子育て支援員」制度を創設します。子育ても立派なキャリアです。これまでの経験を生かして、保育や子育て支援の仕事をしたい、という方の挑戦を期待しています。

女性の皆さんがいつでも誰でも夢にチャレンジできる社会。2020年までに実現すべく、切れ目なく政策を打ち出していきます。まずは、10月、有村・女性活躍担当大臣を中心に、「全ての女性が輝く政策パッケージ」を取りまとめていきます。

(ゲームのルールを変える)

先日、建設業や運送業で働く女性の方々にお会いしました。まちづくりというスケールの大きな仕事はやりがいがある。荷物を届けた時のお客様の笑顔は何より大切。でも、これまでは、男性中心の職場です。彼女たちの頑張りもあり、女性がもっと働きやすくなるよう、職場環境を改善したり、勤務時間を見直したりといった動きが広がっているそうです。

睡眠時間が少ないことを自慢し、超多忙なことが超生産的だ、と誤解している男性は、まだ、おられると思います。女性の皆さんが職場にもっと増え、意思決定を担うようになれば、働き方のルールが変わり、生産性も高くなる。

女性が輝く社会に向けた取組は、始まったばかりです。一番難しいのは、無意識のうちに根付いている「性別に基づく役割分担」を変えていくことかもしれません。セクハラともいうべき発言がまだ見られることも大変残念なことです。

しかし、嬉しい変化も見られます。本年5月には、日本の名だたる企業の男性トップが「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」を結成し、女性の活躍を応援する「行動宣言」を発表しました。

女性の輝く社会づくりは、女性登用の看板を掲げることではありません。一人一人の意識を変える。女性ならではの視点を経営に組み込む。女性が重要な意思決定を担うようになる。働き方も変える。社会を貫くゲームのルールを変えていくことなのです。

(誰もが輝く地球)

この変革を世界に広げたい。女性も男性も、誰もが輝く地球を実現しなくてはなりません。

私は、今年の国連総会で、女性の支援への決意を述べました。女性を中心に据えたODAの実施は着実に進んでいます。詳しくは明日の国際シンポジウムでご紹介いたしますが、我が国は、女性を取り巻く問題を解決すべく、支援を続けていきます。

(今こそ行動しよう)

変化は始まりました。そして、私たちはスタートラインに立ったばかりです。嬉しいことに、日本全国で100件以上、海外でも20を超える国でこのシンポジウムに関連するイベントが開催されます。女性も男性も、すべての人が輝く社会。その構築に向けて、私は先頭に立ちます。皆さんも今こそ行動しようではありませんか。



WAW! To Do (WAW!の意見)

2014年9月13日, 東京

以下は、WAW!メンバーからの提案を踏まえ、議長としてとりまとめたものである。

1 「経済における女性の活躍促進」

- (1) 経営トップがコミットする：目標を明確に、アクションプランを実行し、アカウントビリティを高める。これをサポートする女性活躍推進法案の策定を支持する。中間管理職の意識改革を進める。女性を育成・サポートし、ロールモデルを輩出する。
- (2) 異次元の働き方変革を実行する：長時間労働をやめ、生産性の高い柔軟な働き方を実現。ワーク・ライフ・バランスから、自らの意思で選択するワーク・ライフ・マネジメントへ。
- (3) 女性による起業を支援する：個人保証を要さない融資等、資金調達におけるハードルを下げる。教育課程において、若年層に起業という選択の存在を積極的にPRし、人々の意識を変える。
- (4) 女性によるビジネスをサポートする：女性が経営する企業による公共調達を積極的に促進する。専門性の高いシニア人材を活用しやすい仕組みを導入する。
- (5) 両立支援策を拡充する：女性が働きやすくなるよう、また、子育てや介護を行っている家族により多くの選択肢を与えるために、ホーム・ケアの活用を促進する。そのため、地方自治体と連携し、ホーム・ケア従事者にかかる基準を整備し、市場を創出する。また、供給を増加させ、海外からホーム・ケア従事者を招きやすくするよう、関係する制度を緩和する。
- (6) 税制と社会保障を中立化する：税・社会保障制度を見直し、働き方の選択に対してより中立的な社会制度を実現する。子育て支援のための税制控除等を行う。また、男性が育児休暇を取ることを促進した企業に対する税制優遇を導入する。

2 「グローバルな課題と女性のイニシアティブ」

- (1) 女性及び子供の目前のニーズを手当する：人間の安全保障の脅威となる災害や危機において、包括的で効果的な政策やメカニズムを確実に実施する。
- (2) 女性のエンパワーメントへの戦略的な投資を行う：社会の強靭性を高めるため、政府、経済界、市民団体等の全ての関係者が、教育、医療、経済、食糧分野への戦略的



な投資を行う。

(3) 政治的リーダーシップと女性の参画を確保する：安保理決議1325号及び関連決議の実施を確実にするため、ハイレベルの政治的リーダーシップとコミットメント、国際社会と市民社会の女性との協議、及び平和構築のすべての段階とすべての政府による決定における女性の視点の導入と参画が不可欠である。我々は、具体的な結果に向けた戦略を定めるため、鍵となるハイレベルの政治的指導者を結集させることを提案する。

(4) 平和と安全における女性の役割を強化する：平和と安全において女性が果たす役割を文書化しアクセスを可能にし、そのための努力を支援するための資源を利用可能とする。性的暴力に関する不処罰の文化を終わらせ、平和構築において被害者を中心に据えた支援を提供する。また、女性をエンパワーし支援することを確実にするためのメカニズムを創設する。

(5) 法律、機構、国家政策に現存する女性に対する偏見を是正する：そのような取り組みをモニタリングする。統計的分析論を含め、ジェンダー平等のための構造的障害を合理的に分析することで、女性が直面する課題に焦点を当てることができる。

(6) 女性をエンパワーする：女性の能力強化にテクノロジーは欠かせない。小規模・中規模のビジネスを技術的に支援し、世界中の女性とベスト・プラクティスを共有する。女性が自信を持つためには、ロールモデルとして女性がリーダーシップを発揮するだけでなく、ジェンダー平等を促し、確実なものとする。